

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第64回

ホミカ



ホミカはマチン科に属し、インド、スリランカ、スマトラ、ボルネオからオーストラリア北部の熱帯に自生する高木です。

ゴルフボール程の球形の果実を結び円盤状の種子(画の下中央)数個を内蔵します。これが生薬のホミカで馬銭子とも呼んでいます。ホミカはストリキニーネやブルシン等のアルカロイドを含むため極めて苦く、食欲増進や胃腸機能亢進剤として局方にも収載されています。更に顔面神経麻痺と筋無力症の治療にも用いられるとのこと。

また、ホミカからストリキニーネを抽出製造し中枢神経興奮薬として用いられています。しかし、一個のホミカには人の致死量に当たる程のストリキニーネを含有しますので使用に関しては細心の注意が必要です。随分前の事ですが、学生実習で用いたウサギにストリキニーネを注射すると全身の筋肉が強直性痙攣を起こして亡くなるのを見て凄惨な毒性だと驚いたことを思い出します。

本画は1840年代リゼンドによる作品です。

